

Title	函数方程式ニ就イテ, IV
Author(s)	福原, 満洲雄
Citation	全国紙上数学談話会. 75 p.4-p.7
Issue Date	1936-01-24
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://doi.org/10.18910/74251">https://doi.org/10.18910/74251</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## 328. 函数方程式ニ就イテ, IV

福原満洲雄(北大)

$A$ ノ点ト $B$ ノ点トノ和トシテ表ハサレル点ノ集合ヲ $\{A, B\}$ デ表ハスコトニスル。  $E$ ハ完備シタ線状 $D$ 空間 (*espace linéaire, normé et complet, Banach*ノ $B$ 型空間),  $F(x)$ ハ有界子集合デ *complètement continue*デアルー次函数トシ,

$$(1) \quad X - F(X) = 0$$

トナルヤウナ  $X$ ノ集合ヲ  $M$ ,  $X$ ニ関スル方程式

$$(2) \quad X - F(X) = x$$

ガ解ヲ持ツヤウナ  $x$ ノ集合ヲ  $A$ トスル。

定理9. 「 $\{A, M\}$ ,  $AM$ ハ共ニ一次開集合デアル」

定理10. 「 $AM$ ガ0ガケカラ成ルコトト,  $\{A, M\}$ ガ $E$

ト一致スルコトトハ同等デアル」

コレカラ

定理11. 「 $X$  = 関スル方程式

$$(3) \quad X - \text{ある } F(X) = 0$$

ノ固有値、即チソレガ0デナイ解ヲ持ツヤウナクノ値ハ孤立シテ居ル」

コトカ証明サレル。今迄定理ノ証明ハ殆ンド全部省略シテ、單ニ一例トシテ定理7ノ証明ヲザット述べタダケデアツタガ、ソレハドウイフ順序デ定理11ニ達シタカ、ソノ経路ヲハツキリサセタイ處メデアツタ。次ニ定理11ノ証明ヲ述べヨウ。

簡單ノタメ  $\text{ある } \beta = 1$  ノ固有値トスル。

$$E = E', \quad A = A'$$

ト置キ、一般ニ  $\beta$  ノ順序数トシタトキ  $\beta$  ヨリ小サイ  $\alpha =$  對シテ  $A^\alpha, E^\alpha$  が定義サレタモノトスル、 $\beta$  ノ直前ノ順序数が存在シナイナラバ

$$E^\beta = \prod_{\alpha < \beta} E^\alpha$$

ト置キ、 $\beta$  ノ直前ノ順序数  $\beta - 1$  が存在スルナラバ

$$E^\beta = \{A^{\beta-1}, M\}$$

ト置キ、(2) ノ満足スル  $X$  が  $E^\beta$  ノ中ニ存在スルヤウナクノ集合ヲ  $A^\beta$  トスル、 $\{E^\alpha\}, \{A^\alpha\}$  ハ共ニ一次関係合ノ減少列トナルカラ

$$E^Y = E^{Y+1} = \dots, A^Y = A^{Y+1} = \dots$$

トナルヲナ  $Y$  が存在スル. (2)  $\forall E^Y =$  於ケル方程式ト  
考ヘレバ

$$\{A^Y, M\} = E^{Y+1} = E^Y$$

デアルカラ  $A^Y M$  ハ  $O$  ダケカラ成ル (定理 10). 故ニ (1)  $\forall$   
 $A^Y =$  於ケル方程式ト考ヘレバ其ノ解ハ  $O$  ダケデアル. 故ニ  
 $\delta > 0$  が十分小サケレバ  $|e-1| < \delta$  ノ時 (3)  $\forall$  満足スル  $A^Y$   
ノ点  $X$  ハ  $O =$  限ル.  $0 < |e-1| < \delta$  ノ時 (3) が  $E$  ノ点  $X$  デ満  
足サレテ居ルトスル.  $x$   $\forall$  (2) = 依テ定義スル.  $X \in E^\alpha$  ナ  
ラバ  $x \in A^\alpha$  デアル.

(2), (3) カラ

$$(1 - \frac{1}{e})X = x$$

$\forall$  得ルカラ  $X \in$  亦  $A^\alpha$  ノ点デアル. 従ツテ  $X \in E^{\alpha+1} = \{A^\alpha, M\}$   
ノ点デアル.  $\beta$  が直前ノ順序数ヲ持タズ.  $\alpha < \beta$  ノ時  $X \in E^\alpha$   
ナラバ  $X \in E^\beta = \prod_{\alpha < \beta} E^\alpha =$   $\in$  属スル. 故ニ  $X \in E^Y$  トナル.  
 $X \in E^\alpha$  カラ  $X \in A^\alpha$   $\forall$  得ルノデアルカラ  $X \in A^Y$  デアル.  
従テ  $X = O$  トナル.

以 上

$$(4) \quad X - eF(X) = x$$

ノ解  $\forall$

$$(5) \quad x - G(x, e) = X$$

ト書ケバ  $G(x, e)$  ノ ( $e =$  関スル) 特異点ハ (3) ノ固有値  
デ定理 11 = 依ツテ孤立シテ居ル. 併シソレダケデハ (定理

6ヲ考ヘ=入レテ  $\varepsilon$ ) (3)ノ固有値ガ  $G(x, \theta)$ ノ極=ナルコトハ証明サレナイ。

定理12. 「 $\theta=1$ ヲ(3)ノ固有値トスル.  $\gamma < \omega$ ナラバ  $G(x, \theta)$ ノ特異点  $\theta=1$ ハ極デアアル」

コトハ証明出来タガ、ソノ逆ハ?

定理13. 「 $\gamma < \omega$ ナラバ  $E/A$ ハ  $M$ ト *homéomorphe* =ナル」ガ  $\gamma \geq \omega$ ナラバドウナルデアラウカ?

附記. 後=ナツテ氣がツイタノデアアルガ、前回ハ結論ヲ急ヤ遅ヤテ証明ノ途中デ重大ナ過失ヲ犯シテ居タ。從ツテ今回ノ結果ハ前回ノ定理が成立スル場合=ハ同時=成立スルノデアアルガ、一般ノ線状D空間デ以上ノ定理が成立スルコトガ証明サレタコト=ハナレナイ。